

令和5年度 学校評価 自己評価書(前期)
(教職員18人, 生徒161人, 保護者71人)

4:よくできている 3:できている 2:ややできていない 1:できていない

学校教育目標 「志や誇りをもち、心豊かにたくましく未来を切り拓く生徒の育成」

1 「志や誇り」

(生徒) 将来を意識した生活については平均値3.01と保護者に比べると高い。地域・家庭の手伝いなど貢献度については2.78, 国際社会・地域社会への貢献については2.94とやや低い値であった。

(保護者) 体験活動や身の回りの人との関わりを積極的に推進しているかについての項目が低く, 家庭での手伝いや地域の活動への参加などについては平均2.45と低い値であった。

(教職員) 進路・キャリア教育においては高い意識をもって取り組んでいる(平均値3.31)。一方, 地域や国際理解教育については生徒保護者同様, 値が低かった。

→ 過去のデータでも, 保護者・学校ともに将来のことや進路についてなど, キャリア教育に関しては低く出る傾向がある。昨年から始めた夢や目標をもつことの意義を伝える講演会活動「スクールドリームプラン」を通して, 生徒が志をもつことの手助けができればと考えている。学校におけるキャリア教育の内容やその様子を発信するとともに, 家庭でもらいたい進路学習や体験活動などを紹介することが必要である。小学校区によっては運動会など地域行事によく参加している。

2 「心豊かに」(徳)

(生徒) あいさつの項目, いじめの項目, まとまりのある集団づくりについての数値が高く, 意識付がなされていることがうかがえる。(あいさつ3.2, いじめ3.56)。一方で人権に関する意識, 読書に対する意識が低い結果であった。

(保護者) いじめの項目, あいさつの項目, 他者への人権の大切さに関する項目はそれぞれ高かった。一方, 最も低かったのが家庭における読書の推進(2.13)で, すべての項目の中で最も低い。職員にも同様の結果が見られる。

(教職員) 親和的でまとまりのある集団作りと同項目が保護者の「自他の行いや良さに気付かせる」という項目だが, 職員は3.3と高い。読書については2.88と低い。生徒はよく図書館を利用している。

→ 読書の推進が課題であると保護者はとらえている。生徒はよく本を読んでいるので, (市平均32.4冊に対して本校平均37.1冊) そのことを認め, 励ましたり, 保護者自身のおすすめの本などを家庭で伝えていただくように啓発する必要がある。また, いじめ防止やあいさつ励行の項目が三者ともに高いことが本校の強みである。

3 「たくましく」(体)

(生徒) ストレスマネジメントが昨年度平均よりも0.3ポイント上昇して(2.98←2.68)いる。ストレスの対処法について、保健部の啓発やストマネの講義、学級担任による通信等が奏功しているようである。規則正しい生活についても向上が見られたが、依然2.78と課題である。

(保護者) 感染症対策については十分高い結果が得られた。昨年度に見られた規則正しい生活の項目における生徒との乖離^{かいり}については保護者も2.76と、今回は解消されていた。また、性教育や薬物乱用、メディアの使い方の指導などについては、2.63と低く、保護者への啓発や情報発信が必要ある。

(教職員) 安全面全般の値は高く出ているが、ストレスマネジメント(2.88)や性教育・メディアの活用(2.94)において低い結果であった。前回見られた生徒との意識の乖離は解消されていた。

→ 「たくましく」の項目では、全体的にストレスマネジメントの指導や言葉かけが課題が少しずつ解消されてきている。一方でメディアの使い方・性教育については、引き続き学級通信や保健だより、PTA時などでの共通理解や啓発が必要である。

4 「未来を切り拓く力」(知)

(生徒) 自ら学ぼうとする姿勢を高く自己評価している生徒が多い(3.25)。また、分からなかったことを個別最適な方法で解決しようとする生徒が多い(3.30)。教科によっては予習型授業も推進していることから、予習・授業・復習のサイクルを確立させているかという項目は2.96と前回より向上していた。

(保護者) 予習・授業・復習のサイクルを確立させようと促すことが2.68と低く、引き続き課題である。分からない問題等を先生や友達に尋ねさせるように促す項目が2.87と下がってきていることも課題である。

(教職員) どの項目も「よくできている」の回答が多い。生徒・保護者との間で「予習・授業・復習サイクルの確立とテスト後の学習の促し」の意識が乖離していることは課題である。保護者が自宅で学習についてあまり細かく指示できないことを踏まえた、家庭学習のさせ方を考えたり、提案したりする必要がある。

→ 「未来を切り拓く力」の項目では、全般的に高評価であるが、生徒や保護者がどのように家庭学習を進めるのか、見届けるのかを伝達していく必要がある。

○ 一校一改善「生徒個々のできることを増やすことで、生徒の自己肯定感を高める」

(「学校楽しいーと」の自己肯定感に関する値の変容)

	R 4. 5	R 4. 1 1	R 5. 5
1年生			11.11
2年生	11.16	11.14	10.70
3年生	11.03	10.97	11.44

※最大数値は16

→ 一人一役や各種委員会を通して、自他の良さに気付かせていく必要がある。学級通信などで、生徒の頑張りを生徒・保護者に伝えていくことも進めていく。